

令和7年度 江戸川区立上一色中学校 学校関係者評価報告書（学校経営計画・学校関係者評価シート）

学校教育目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>自ら学ぶ生徒</li> <li>心身を鍛える生徒</li> <li>社会をつくる生徒</li> </ul>	目指す学校像 目指す生徒像 目指す教師像	<ul style="list-style-type: none"> <li>保護者、地域と連携し、信頼され豊かな教育活動を展開する学校</li> <li>自律し、国家・社会の一員としての自覚と貢献する気持ちをもった生徒</li> <li>熱意をもって職務に専念し、確実な学力に向け豊かな教育活動を展開する教師</li> </ul>
前年度までの本校の現状	成果 <ul style="list-style-type: none"> <li>①学力向上に向け、計画的な校内研修を実践し、ICT機器の効果的な活用や授業観察・研究を行い、対話的な授業への取組が増加した。</li> <li>②「心の教育」に重点を置いた道徳教育・授業を意識し、議論・対話する特別な教科道徳の授業、いじめ防止や人権教育に基づいた指導が定着してきた。</li> <li>③学校行事・部活動では「文武(部)両道」のもと、生徒の主体性を尊重し、自己肯定感・効力感・有用感を育む教育活動を実践した。</li> </ul>	課題 <ul style="list-style-type: none"> <li>①学力調査の分析結果等からC・D層の理解度の生徒の割合が多い。基礎・基本の定着、学力向上に向けて、校内研修やOJTの取組を工夫し、その充実を目指す。</li> <li>②特別支援教育やいじめ防止・不登校対応について、人権教育や生徒対応、道徳授業の指導力向上を目標にし、その取組の充実を目指す。</li> <li>③読書科の「よむYOMUワークシート」や英語教育のALTの活用、ICTや学校図書館の活用により、思考力・判断力・表現力の向上や探究学習の充実を目指す。</li> </ul>	

重点	取組項目	具体的な取組内容	数値目標	達成度		「中間」自己(学校)評価(A~D)		「中間」学校関係者評価(A~D)		「年度末」自己(学校)評価(A~D)		「年度末」学校関係者評価(A~D)		次年度に向けた改善案
				9月	2月	評価	コメント	評価	コメント	評価	コメント	評価	コメント	
学力向上	○授業改善の推進、学習の基盤となる基礎・基本の確実な定着と学力向上の方策	<ul style="list-style-type: none"> <li>校内研修における授業観察、研究授業、協議会での主体的・対話的で深い学びを実践していく。</li> <li>全国、区の学力調査、定期考査の正答率より、それぞれの教科、分野の理解度を分析し、授業、家庭学習課題の改善につなげる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒が、授業アンケートで授業がわかる、達成感の感じられるという肯定的な回答を85%以上得る。</li> <li>区の学力調査では、経年変化で、前年度より正答率が上回るようにする。</li> </ul>	80%	85%	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒の全教科授業アンケートで、肯定的な回答が85%以上であった。また、研修主任、情報リーダーを中心に校内研修を計画的に実施し、授業での効果的な活用方法の技能を高めた。</li> <li>全国学力・学習状況調査の結果から学力やその傾向、学習状況を分析し、基礎の学力、家庭学習習慣の定着に向けて定期考査前PDCAサイクルの家庭学習方法を身につけていく。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>全国学習状況調査より、家庭学習時間が少ない。家庭と協力して全校体制で、基礎の確実な定着や、学力の向上に向けて取り組む必要がある。</li> <li>学校(授業)等の様子から生徒は意欲的、活発に学習に取り組んでいる様子が見られた。</li> <li>ICT機器の活用が学習に活かされるとよいが、家庭での端末の活用方法についてはルール等、改善が必要である。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>年2回全教科の授業アンケートを実施し、授業満足度や肯定的な回答が9割以上であり、生徒が主体的に取り組んでいる。</li> <li>江戸川区の学力調査において、経年変化で、昨年よりどの教科もA,B層の割合が高くなり、定期考査においても基礎・基本や知識、技能の観点の正答率が上がった教科が増え、基礎の定着や学力向上が実現してきている。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>授業の様子を観察し、生徒が落ち着いて生活したり、学習に取り組んでいる様子が見られた。タブレットの活用もモニターに写したり、発表で活用するなど効果的に使用する姿が見られた。</li> <li>区の学力調査や定期考査、放課後の質問・補習教室、定期的なコンテスト等で基礎の学力の定着や生徒が授業に前向きに取り組んでいる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「学力の向上」や「授業力向上」を研究のテーマとし、生活指導や学級経営、ICT機器の効果的な活用等により、生徒の主体性を伸ばしていく。</li> <li>区や全国学力調査、定期考査や領域別テストの結果を分析し、各教科、各学年だけでなく、全校体制で家庭学習習慣の定着を実現していく。</li> </ul>
	○学習習慣の定着に対しての学校の組織的な対応による取組の実施・充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>質問・補習教室を定期考査前に実施し、また年間をとおして、放課後補習授業を計画的に実施し、数学・英語の基礎力の向上を図る。</li> <li>授業改善と授業力の向上を教科部会や校内研修で計画的に取り組み、教職員間のOJTを職層に応じて実践する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>質問・補習教室を年間4回実施し、1回ごとに課題を改善、効果的な実施を検証する。</li> <li>学期に1回、教科部会・校内研修で授業改善・授業力向上の研修を実施する。</li> </ul>	90%	90%	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>昨年の質問教室から、生徒が自主的に参加できる補習教室を開催し、達成感をもたせて学習意欲を向上させている。</li> <li>研究授業やICTを活用した、学力向上につながる効果的な活用方法等の研修を深め、主体的、対話的な活動から学力向上につながる授業の実践につなげた。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>定期考査前の補習教室に前向きに取り組んでいるようで、業者の補習も効果的に活用できるとよい。</li> <li>授業評価も肯定的な意見が多く、教員が一体となって、頑張ってもらうことで、学習活動に意欲的に取り組める学校となっている。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>業者の放課後補習は参加人数を定着させ、目的意識をもって参加させられるよう、後期から担当を中心に体制を整えた。</li> <li>研究授業を年3回実施し、授業や学力向上の課題を明確にした。また授業観察月間で授業者の長所や生徒の主体性を引き出す指導に焦点を当て、教科部会等で研修を深め、実践につなげた。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>業者の放課後補習授業は普段の生徒の様子かわからないと思うので、いかに教師と連携をとるかが重要である。先生たちが補習を実施することで、負担になったり、時間をどのように調整しているか、より良い働き方を考えることも大切である。</li> <li>英語の授業でALTを活用しての授業は楽しく取り組んでいるようで評判が良い。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>質問補習教室と授業による家庭学習課題を工夫し、家庭学習習慣の定着から、主体的な態度の実現における授業改善を意識していく。</li> <li>教員間では、職層に合わせたOJTの役割を明確化させ、生徒には調査や小テスト、コンテスト等で自己肯定感を高める。</li> </ul>
	○読書科の更なる充実・探究的な学習の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>「よむYOMUワークシート」を朝読書、授業等で計画的に実施し、読書科の成果物作成と併せて、読書科の取組を充実させる。また探究的な学習の良さを理解させ、問題解決力の向上や発表する力の育成を実現する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>全学年「よむYOMUワークシート」を年間30回実施する。また3年生は卒業研究を完成させ、1・2年生は調べ学習や成果物の発表を2回以上実施する。</li> </ul>	90%	90%	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>よむYOMUDAYを毎週実施し、よむよむワークシートを使って読解力を向上させている。朝や総合学習の時間で、読書の習慣化を図り、国語の授業で応用・発展的な活動を実践している。今後は弁論大会・読書科コンクールや国語科の取組と連携させて実施を予定。3年生は修学旅行の事後学習から卒業研究につなげていく。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>今年度は朝の時間に決まった課題に取り組んでいるため、読書や本に興味をもつ生徒が増えている。しかし読解力が高まっているかは、何か結果として表れるとよい。</li> <li>新聞や本を読むことが、家庭での生活で少なくなっているの、総合や学校行事、国語の授業等で読書活動を増やして、文章力や読解力を養ってほしい。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>「よむYOMUワークシート」の基礎の内容を朝の活動、発展的な活動を国語等の教科の授業で実践し、宿泊行事の事前学習や卒業研究発表の表現力の向上につなげた。また、読書科コンクールや探究学習での成果物を弁論大会等の活動や、文化祭等の活動と併用し、発表を工夫したり表現力を高める活動が実践された。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>朝の活動で読書活動を推進して習慣化していることが感じられる。ただし効果が上がったり、読書の幅が広がっているかどうかは、分析が必要だと感じる。</li> <li>家庭での読書活動に対して、本の紹介をするなど情報提供するとよい。文章力や読み取る力、考える力などは社会に出て最も重要な力である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>よむYOMUDAYとして年間通して、朝の読書活動だけでなく、全校体制で教科横断的な取組や、それぞれの行事で探究活動を充実させる。</li> <li>ICT機器を活用するなど発表する方法を聞き手を考えた理解しやすい内容にさせ、表現力や読解力を計画的に育成する。</li> </ul>
体力向上	○運動意欲の向上や健康の推進に向けた取組の実施・改善・充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>体育授業導入での上中トレーニングを実施する。</li> <li>1学期の体力テストから課題点を分析し、体育授業・部活動等で体力向上を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>体育授業前の上中トレーニングを毎時間実施する。</li> <li>毎学期、体育授業と部活動の体力向上の視点から、体力向上委員会を中心として検討する。</li> </ul>	85%	85%	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>体育の授業前に上中トレーニングを計画的に実施し、体力と意欲の向上に取り組んでいる。</li> <li>2、3学期も内容を発展させていく。</li> <li>保健体育の授業では補助運動を計画的に実施し、単元ごとのレクリエーション的な活動をとおして、主体性や深く考えることを意識させている。今後も継続していく。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>部活動に大変、意欲的に取り組んでおり、生徒が活動しやすい環境を構築できている。</li> <li>学校公開でも体育の授業に楽しく参加している様子がある。</li> <li>しかし、プールが屋外にあったり、校庭も涼しい場所がなく、熱中症対策については徹底が必要である。また古い設備や体育館の用具が壊れたままで大変危険であり、施設の修繕を早急実施するべきである。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>年間をとおして、体育の授業前のトレーニングを計画的に実施し、生徒の実態や特性、発達段階に応じて工夫して実践した。</li> <li>文武「部」両道を学校の目標に掲げ、体力向上につながる活動を保健体育の授業、部活動、学校行事等で充実させた。また体力テストの結果から、運動能力に応じて目標設定の基準や内容を改善した。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校行事、体育授業、部活動等で意図的にトレーニングを行い、部活動など、輝かしい成績を収めて生徒が活発に取り組んでいる。</li> <li>体力テストの結果で東京都や全国を上回っているものも多く、生徒は主体的に運動に取り組む、大会等の優秀な結果から、体力向上により一層力を入れて継続してほしい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>定着している補助運動や上中トレーニングは引き続き、生徒の実態や発達段階に応じたものにし、実践していく。</li> <li>体力テストを学校全体だけでなく、個々の結果に関して分析し、課題や目標を明確にさせて、主体的な活動を促していく。</li> </ul>
	○部活動・学校行事における「文武(部)両道」の実現	<ul style="list-style-type: none"> <li>1学期の運動会や、部活動の取り組みにより、運動が楽しいと感じる場面を増やし、自己肯定感を高め、自信をもって主体的に行動する態度を育成する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>各行事において自己肯定感を高める活動を実施し、部活動においては学期ごとや代替わりとなる場面で集団の中で適材適所で特性を活かせる集団を構築する。</li> </ul>	95%	95%	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>運動会の学校行事等では学級・学年で目標をもたせて生徒自らが創意工夫し、その実現に向けて主体的に活動している。</li> <li>また、部活動では向上心や持続性を大切に、体力づくりを積極的にを行い、個々の運動能力に応じて指導内容を工夫・改善している。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>家庭でも体力が向上している様子があり、充実した様子で学校行事や部活動に子どもたちは取り組んでいる。</li> <li>運動会では様々な競技において生徒が生き生きとした様子で取り組んでいた。上中ソーランは3年生が立派に踊っていた。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>運動会や球技大会等、リーダーや実行委員、各担当の役割などを明確にさせ、自己肯定感や自己有用感を高める取組を実施した。</li> <li>部活動では、体力向上と関連させて日常の基本的な生活習慣について定着するよう、日常での体力づくりを意識させた。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>運動会で生徒が活発に取り組んでいて、上中節や上中ソーランも伝統を受け継いでいて今後も続けてほしい。</li> <li>テントが足りなかったり、施設の老朽化が進んでいて使っている道具や用具も古く壊れているものが多く、修繕が必要である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校公開で地域、保護者に積極的に授業、学校行事を見ていただき、一体となって活動にする。</li> <li>日常での生活や運動で体力向上を意識させ、行事の意義や集団生活の向上を目標に主体性やリーダーの資質を高める。</li> </ul>

教育の推進	〇ユニバーサルデザインの視点を取り入れた個に応じた指導の実施・充実	・教室の整理整頓、配布プリントや投影画像の文字のUD化など授業や特別活動において個別の支援を実践する。また一人一台端末の効果的な活用を図る。	・ふれあい週間等でUDや人権に配慮した掲示・表記の徹底を実践する。 ・環境委員会による各学期2回の教室の整理整頓、掲示物チェックの実施。	90%	90%	A	・校内委員会や研修等で。人権教育やUDを取り入れた学級経営、特別支援教育、人権教育やその指導について研究を進めた。 ・「心の教育」を常に意識し、子どもたちに寄り添い、不適切な指導の根絶への理解を深め、指導力の向上を実現した。	A	・面談の機会を設けていただき、巡回指導教員や特別支援教室専門員と相談することができた。 ・週1回の特別支援教室の指導で、エンカウンターやよりよいコミュニケーション方法について学び、他者との関わりや、集団生活での大事なことの理解ができています。	A	・年間をとおして、学習や生活習慣において、校内研修等でユニバーサルデザインや人権に配慮した教室内の掲示物や整理整頓を工夫して実施した。 ・生徒会の奉仕活動や定期的な環境委員会のコンテスト等の取組と関連付け、すべての生徒が生活しやすい環境づくりを実践した。	A	・教室の設備（ドアや床、棚）やトイレ等設備の老朽化が進んでいる。学校や生徒が活動しやすい設備を少しでも作ってもらおうとよい。 ・ICT機器を使って理解しやすい授業を、工夫して行っているが、黒板のスクリーンでは見づらい状況があり、写すモニターが各教室にあるとよい。	・生徒会や環境委員会の奉仕活動が定着している。学校や生徒が主体的に行う取組を提案していく。 ・「心の教育」を生活指導・学習指導両輪となっており、親和的な集団、学級経営に向けた研修を計画的に実施していく。
	〇校内委員会の活性化や組織体制の構築を図ることなどによる指導・支援の充実	・特別支援教育や週1回の教室の状況について、特別支援教育コーディネーターや専門員を中心に、校内委員会を開催する。また巡回指導教員及び巡回指導心理士からの助言を活かし、個別最適な対応を実現する。	・校内委員会を2週に1回以上開催し、また週1回の生活指導部会と連携し、巡回指導教員と情報共有を図る。	90%	90%	A	・週1回のコーディネーター専門員、巡回教員との情報交換を行い、特別支援教室の生徒の現状や課題を共有し、集団生活での特別な支援や個々への合理的配慮等、個別の指導を充実させた。二者面談で個々の生徒の特性に応じたそれぞれの対応を考えていく。	A	・生徒一人ひとりの特性に応じて支援や配慮の方法を考えるためには、打合せや会議が必要になり、どのように運営していくか、方策や方法が大切だと感じる。 ・心理士やカウンセラー、ソーシャルワーカーなど、専門性のある人材が確保されているので上手に分担できるとよい。	A	・校内委員会を生活指導部会と連携させて定期的に開催しホットルームの学習状況や、教員との関わり、特別支援・配慮が必要な生徒の生活状況を確認して課題解決を行った。また心理士やSCからの観察、助言を活かし、合理的配慮等の方法等、個別の指導や支援、特別支援教育への理解を深めた。	A	・共生社会を実現したり理解するには、学校の教育や活動だけでなく、外部での体験や経験、人とのつながりが大切であり、地域と学校とで連携していく。 ・特別支援教室やカウンセラーと面談を実施し、集団生活で大切なことや進路について相談する機会があり、卒業後の目標・手立てを考えることができた。	・特別支援教育やエンカレッジルームをはじめとした、別室での学習活動、それに対する評価や進路選択について、計画的に研修を実施する。 ・QUやUDの活用、合理的配慮など、個々の生徒に対応できるように、指導力の向上を図る。
	〇エンカレッジルームの活用促進  〇副籍交流、交流及び共同学習の実施・充実	・学校生活、学習機会の確保のため居心地の良いエンカレッジルームの活用を巡回指導教員と連携して支援できる体制を構築する。 ・副籍では間接交流により、共生社会の理解を深める。	・巡回指導教員との月1回の使用状況の確認、週1回の巡回指導の実態の把握。  ・副籍交流では、鹿本学園との関わりにより、年間3回以上の交流を実施する。	80%	85%	B	・不登校巡回教員と連携し、エンカレッジルーム、活用方法を確保。エンカレッジサポーター（別室指導支援員）と、不登校生徒一人ひとりへの対応を協議している。 ・1学年の共生社会の実現に向けた学びの活動で鹿本学園との交流活動を計画している。	B	・不登校生徒や教室に入れない生徒に対して、過ごしやすい環境を構築して、エンカレッジルームやSC教室を効果的に活用している。 ・江戸川区のみらいサポート教室とエンカレッジルームを併用して活用することで、学習や生活する場や機会が提供されている。	B	・定期的にエンカレッジルームの活用方法について、巡回指導教員と特別支援専門員、サポーターと確認し、より良い居場所や適切な信頼関係の構築により、体制が確立された。 ・副籍交流、協働体験、作品展示による交流により、共生社会の実現に向けて道徳授業とも関連付け、実施した。	B	・区の学習や生活支援施設、学校での別室指導があると聞き、社会に出たときに、よりよい人間関係が作れるよう、支援をお願いしたい。 ・学校や地域の様々な奉仕・ボランティア活動を体験し、また鹿本学園との交流活動を通じて、共生社会を生き抜くたくましい人に成長してもらいたい。	・安心して学校生活、学習活動が今後も行えるよう、エンカレッジルームの運用方法について検討し、校内別室指導を充実させていく。 ・鹿本学園との交流を今後も継続し、発達段階に応じた活動方針や目標を立てて交流を促進する。
不登校・いじめ対応の充実	〇いじめ・不登校の未然防止に向けた魅力ある学校づくりの取組の充実	・生徒の主体性を活かした学校行事や学級組織作りを実施し、生徒会活動を中心に学校生活全体でいじめの未然防止、個に応じた対応を行う。 ・いじめ防止基本法に基づき職員全体で共通理解を図り、いじめ対策、生徒対応等の校内研修を実施する。	・いじめ調査を各学期、年間3回以上実施していじめ防止対策や早期発見・未然防止に取り組む。 ・年間3回いじめ防止研修を校内研修で企画・実施し、ふれあい月間においては個人研修で、理解を深める。	95%	95%	A	・生活指導部会や運営委員会を週1回行い、生徒の変容と行事、学級経営・集団活動の工夫・改善を実践している。 ・6月にふれあい月間でいじめ防止や対応について、個人研修と、いじめ重大事態とその対応について校内研修を実施。いじめの未然防止や早期・対応を実践している。	A	・小さな問題はあるが、早期対応・解決し、生徒が主体となって活動し、いじめのない、よりよい人間関係や学校生活が送れていると聞き、安心した。 ・1学期終わりに全学年、教員との三者面談、1年生は学年教員やSCと全員面談する機会があり、子ども達の発達段階に応じた相談できる環境が構築できている。	A	・いじめ調査を年3回実施し、道徳授業を中心としていじめに関する授業、いじめ防止研修を定期的に実施。生徒・教職員共により良い人間関係、信頼関係を構築した。 ・ふれあい月間を年3回実施し、いじめ重大事態やその対応策を理解し、不登校生徒対応や特別支援、適切な生活指導と関連付けて研修を実施した。	A	・学校公開や行事をとおして、生徒が生き生きと生活している。今後も生徒が安心して学校生活を送り、いじめのない学校を作ってもらいたい。 ・教員の指導だけでなく、生徒が主体となって、「いじめは決して許されない行為であること」を意識しているようで安心した。	・いじめ対策委員会を中心に、いじめの早期発見、早期対応・解決を実現するため、臨時に上がる課題や問題について迅速に対応し、組織的、計画的に実行する。 ・研修についてはいじめ重大事態とその対応、事例研修やふれあい月間の取組を強化していく。
	〇不登校対策の実施・充実させ、教育相談の強化	・SC・SSW・不登校コーディネーターを中心とした不登校対策推進委員会を充実させ、情報共有や共通理解を図り、全校体制で組織的な体制を構築する。 ・不登校担当巡回教員を活用し、生徒の状況を把握し、今後の手立てや対応策を検討するための研修を行う。	・不登校対策推進委員会を1か月に1回以上、個々の生徒については週1回実施し、生徒の変容を把握する。 ・不登校巡回教員を活用した研修を年間1回実施し、組織的な対応を実践する。	85%	90%	B	・不登校対策推進委員会を月に1回実施。夏休み前や2学期始まってから、過ごしやすい生活環境が構築できるよう、不登校巡回教員やSSW・SCとの連携を図り、家庭と学校との連絡・相談を円滑に行った。 ・1学期生徒の生活アンケートを実施し、集団や生徒個々の、状況やその傾向を分析し、学級経営や対応策につなげた。	B	・スクールソーシャルワーカーやカウンセラーと定期的に面談や家庭訪問が行われていて学校とのつながりがもてている。  ・地域の人材や外部の教育相談機関と連携し、より一層、効果的な支援方法を考察し、不登校生徒を減らしていけるとよい。	A	・校内委員会を週に一回開催し、SCやSSWの助言のもと、個々の生徒の変容や時期に応じて、支援方法を考え、保護者、外部機関と連携して行った。 ・不登校巡回教員を活用して、家庭環境や状況に応じて面談を行い、また生活アンケート等で生徒個々の特性を分析し、特別配慮が必要な生徒や不登校生徒に関して最善な対応を行った。	A	・民生児童委員等、地域の人材や児童相談所等、外部の教育相談機関と積極的に連携している。今後も不登校生徒を減らしていけるとよい。 ・教員以外で不登校生徒の対応で様々な人材がいることを知り、誰かとつながることで、現在の生活や将来に向けて、見通しが立てられ、前向きに生活できる環境が作れると思う。	・校内委員会を不登校対策や特別支援教室等、重点的に検討できる組織を構築し、担任、学年教員、コーディネーター等、それぞれの役割や連携方法を共有し、外部機関との連携をより一層深めていく。
	OL-GATE「毎日の記録」、Hyper-QUの活用	・L-GATE「毎日の記録」により、学級や生徒の状況を察知し、また生徒の生活・学習習慣の向上を促進する。 ・1学期にHyper-QUを全学年で実施し、教職員が学年、生徒一人ひとりの特性を分析、把握できるようにし、学校行事、特別活動に活かしていく。	・毎日、L-GATEで授業日、長期休業中の生活、学習の様子を記録・確認する。 ・QUを年1回実施し、SCによる分析結果による研修も行い、学級や学年の状況の把握、教員の生徒指導力の向上を目指す。	80%	80%	B	・学期中や夏休みの長期休業中にL-GATE「毎日の記録」で生活状況を把握し、つながりのある温かい人間関係の構築を実現している。 ・1学期Hyper-QUを実施し、学級や学年の結果を分析し、夏季休業明けにSCの専門性を活かした研修を実施し、学級経営・生徒対応力を向上させ、普段の生活や行事等での運営につなげた。	B	・「毎日の記録」により基本的な生活習慣の定着や教員とコミュニケーションがとりやすくなった。しかし、簡易的になり、学習や生活の向上につながるかは疑問である。 ・Hyper-QUを実施したり研修を行うことで、いじめのない安心・安全な学校生活が送れ、仲間とのより良い関係が送れるようになるという。	B	・授業日だけでなく長期休業中等もL-GATE「毎日の記録」を習慣化させ、生徒からの発信や悩み、変容を早期に察知し、生徒、教員間で信頼関係を構築した。 ・Hyper-QUを実施することで生徒や学級の特性だけでなく、合理的配慮や特別な支援について、SC研修等とおして、意識するようになり、よりよい学級経営や集団生活の向上につなげることができた。	B	・ICT機器を使って生徒の生活状況を把握するというのは、現代の社会生活に適しているように感じた。ただし、実際にどのような効果があるのか、明示したものとあるとよい。 ・校内研修を意図的、計画的に実施し、スクールカウンセラーとも連携して、生徒一人ひとりのことを、学校全体で考えてくれていて、今後も継続してほしい。	・一人一台端末を活用した、基本的な生活習慣の向上に向けて、効果的な活用についてより一層、良い事例をもとに研修を重ねていく。 ・ある学級だけでなく学年、学校全体で親和的な集団を構築できるよう、生徒主体の教育活動、学校行事を創り上げ、生徒の自己肯定感、自己有用感を高めていく。

学校(園)の実現	地域社会に開かれた	○学校ホームページ・連絡アプリ等の配信の充実	・地域、家庭に授業日に、学校HPで教育活動・各学校行事・学校生活の生徒の様子、給食献立等情報を発信する。 ・連絡アプリ等で家庭に緊急連絡を行い、早期に学校、教育委員会等の情報を周知する。	・HPの更新は、給食の献立等を含め、学年や分掌のHP担当者が週1回以上行う。 ・連絡アプリは重要な配布物、学校行事の実施時等に随時配信する。	85%	85%	B	・学校HPで各教育活動について、更新を継続。給食活動では、献立等を配信し、学校生活の様子について、情報を公開している。 ・学校だより等の配布物や重要なお知らせは生徒へ紙での配布、保護者へは、緊急連絡についてteturuと併用して配信している。	B	・宿泊行事や運動会の活動についても学校HPで様子を確認できた。今後も色々な活動で、さらに紹介しているものを見られるとよい。 ・PTA活動やボランティア、教育委員会からの緊急連絡や重要なお知らせをteturuで把握できた。	B	・学校HPの更新を各教育活動や学校行事ごとに配信し、学校だよりや重要なお知らせなど、地域や家庭に学校の様子を知らせることができた。 ・連絡アプリ等で緊急連絡をその都度行き、各学年のお知らせや進路・受験に関する内容、PTA活動など、紙での配布と併用して実施した。	B	・重要なお知らせが子どもから届かないことがあったので、学校HPやteturuで配信していただき、助かっている。 ・定例の保護者会や宿泊行事の保護者会で、詳細を情報発信されている。普段のお知らせ等は電子配信もよいが、紙で配布されたものはゆっくり読みやすいという利点もある。	・生徒の学習活動の課題や部活動等の連絡は一人一台端末を活用し、地域・保護者への配信は学校HP、連絡アプリを有効活用していく。 ・学校での進路説明会についてなど配信での公開など必要に合わせた、公開方法を工夫する。	
		○学校公開、保護者会、説明会等の実施・充実	・学校行事、その説明会等、公開する教育活動について、地域・保護者が参加する機会を作る。 ・授業公開や学校行事の公開を行い、それぞれの行事・教育活動について積極的に学校の状況を伝える。	・毎学期の保護者会や行事・進路等の説明会を実施し、交流・情報発信する機会を増やす。 ・年間4回の学校公開による授業・行事の公開を実施する。	90%	90%	A	・学校行事やPTA活動をとおりて学校公開の運営、保護者会や三者面談、進路説明会等で学校や子どもたちのことについて、地域・保護者と一緒に活動、考える機会をつくっている。 ・「地域に開かれた学校」を実践し、学校(授業)公開、小学校への積極的な公開、運動会等の学校行事で、教育活動や生徒の様子について地域・保護者に学校の情報を伝えられた。	A	・昨年度と比べて、学校公開や保護者の参観が増えて、運動会をはじめとした学校行事や学校公開に積極的に参加している。 ・保護者会や進路・宿泊行事の説明会、三者面談等で子どもたちの普段の様子や、教育活動の内容について、把握することができた。	A	・運動会や文化祭等、積極的に教育活動を地域・保護者に公開した。また小学校との連携する機会を増やして工夫し、学校の様子について知ってもらうことができた。 ・道徳授業地区公開講座や保護者会、説明会などで教育活動について、詳細を説明した。また個別の相談に常に対応し、特別支援や配慮できること、個々の相談、進路について悩みや解決策を共有した。	A	・学校行事や授業公開等の活動で、保護者がPTA活動等で運営を手伝うことで、保護者も一緒になって行事に参加する意識ができて良い。 ・コロナ禍に、学校行事や教育活動、PTA活動について、変化してきている様子が見える。子どもたちのために、よりよいものになるよう検討し、地域・保護者と一体となって学校の行事に協力できるとよい。	・保護者・地域の方に読書科や英語科の取組など、特色のある教育活動を公開できるよう、年間をとおして学校公開・行事について計画を立てる。 ・小中連携を強化し、学習活動の方向性を確認したり、入学に向けて早い段階から準備できるようにし、中一ギャップを解消する。	
		○教育活動の改善・充実に向けた学校関係者評価の実施	・学校評議員会、PTA運営委員会等で、教職員と地域・家庭が教育活動について意見・課題を共有、連携の機会を作る。 ・三者面談で学校生活、学習状況、家庭の課題を共有し、一体となって生徒を見守る環境を作る。	・地域・保護者への学校評価アンケートを年1回実施する。 ・三者面談を学期末で2回、3年生は進路面談も合わせて3回実施し、保護者学校評価を1回実施する。	85%	85%	B	・前期生徒の授業評価を実施し、教員が授業の方針や方法について、生徒の実態を考えながら、授業改善・研修を行った。学校行事に関しては、学校評価を実施し、内容の改善・精選を行い、後期、来年度につなげていく。 ・前期、学校評議員会やPTA運営委員会を2回ずつ開催し、教育活動の現状の課題や今後の改善点について検討。地域に根差した学校づくりが進められている。	B	・PTA総会や運営委員会等で教育活動や学校の様子について聞くことができた。地域が一体となって学校の行事に協力できるよう、保護者の参加を増やしていきたい。 ・家庭学習習慣の定着が大事であると聞き、業者の放課後補習教室への参加が少ないようでもっと増やしていくとよい。 ・学校評議員や学校応援団の意見や要望が発信しやすいような学校評価があるとよい。	B	・年に2回の生徒学校評価(授業評価)に加え、地域・保護者への学校評価アンケートも実施し、生徒の実態や授業・学習の課題を把握し、また学校行事は練習や準備の内容の精選を行い、教育課程を編成した。 ・年に3回の学校評議員会やPTA運営委員会等で、地域・保護者の声に耳を傾け、教育活動が円滑に行われているか確認し、地域に根差した教育活動を実現した。	B	・学校公開で生徒の授業の様子、また給食運営委員会、給食試食会で給食の様子を知ることができ、安心・安全な学校運営がなされていることが感じられた。 ・保護者会や三者面談で、学校や子どもの取組の様子について共有することができ、またPTA運営委員会や学校評議員会で教職員・保護者・地域が意見交換することができた。	・生徒授業アンケートや、地域・保護者対象の学校評価を効果的に活用して、生徒の学力向上や学校行事、教育活動の充実・精選のため、委員会や分掌部会で検討し、改善していく。 ・学校応援団の取組や地域での奉仕活動に積極的に参加し、PTA運営委員会、学校評議員会での意見交換を定期的実施し、充実させる。	
教育の展開	特色ある	○「学校における働き方改革プラン」に基づく取組の実施	・校務分掌の見直しを図り、仕事内容の精選や役割分担をバランスよく実施し、負担を軽減する。 ・各教員が部活動のない日など定時退勤を意識し、働き方の改善を行う。	・各学期分掌部会、毎月、運営委員会等で校務分掌の見直し、仕事の精選を行い、業務の効率化や前年度より、勤務時間の減少を実現する。	80%	85%	B	・学校経営支援を担う人材を引き続き活用して、それぞれのスタッフや外部指導員、支援員等と連携して、業務の効率化、種類を精選し、学習指導や生徒対応に時間が費やせるようになった。また、校内や職員室内のICT環境を整備し、仕事が効率よく進むようにして、勤務時間短縮を実現していく。	B	・PTA活動等で、教育活動や学校行事の運営に携わることができ、子どもたちの様子も見ることができた。今後も協力できる場があれば、携わっていきたい。 ・働き方の変革については、先生方の業務だけでなく、学校・家庭・地域との連携やPTA活動の効率化、学校行事の在り方等を考える必要がある。	B	・会議の時間や内容、効率的な業務遂行を少しずつ実践し、SSSや校内別室指導支援員、事務補助等、学校経営支援を担う人材を活用し、生徒対応や授業準備等に時間を確保できた。また、校務PCやiPadの活用方法を、ICT支援員と連携することで、授業準備など仕事が効率よく進み、勤務時間短縮が少しずつ実践されている。	B	・PTAの委員会活動など業務の精選を検討し、効率化や負担のかけられないようにしつつ、子どもたちの教育活動に積極的に協力できるようにしていけるとよい。 ・働き方については、先生たち以外でできる業務を考え、支援員やサポートスタッフ、部活動等で地域、外部の人材を積極的に活用し、変革するとよい。	B	・働き方の実践方法について他の学校の方法を取り入れ、また学校支援を担う人材の効果的な活用に関して業務内容を継続して検討、改善する。 ・新iPadの導入に伴って校内の情報環境やICT環境を整備し、授業準備や成績処理等、仕事のより一層の効率化を図る。
		○「小中連携教育構想」及び「各教科等の連携教育プログラム」による連携の充実	・「小中連携教育構想」に基づき、小学校の児童、保護者に向けて学校公開、授業体験、部活動見学・体験の取組を実施、入学時に安心して生活できるよう、情報を発信する。	・児童の授業体験、部活動交流、保護者説明会を年2回実施。また、儀式行事や研修等で教員が小学校に訪問する機会を年間3回以上設ける。	90%	95%	A	・小学校との小中連携校を拡大し、授業公開や体験授業、部活動体験を9月に実施。保護者会でも、「地域に開かれた教育活動」を説明し、情報を発信した。後期は入学説明会や体験入学、小学校訪問等を予定している。	A	・小学校に土曜日の授業公開や体験活動、説明会等、学校の様子を積極的に発信している。 ・来年度、入学生を増やす取組として先生方が動いているので、地域でも祭礼、奉仕活動などで学校の生徒が参加したり学校の様子かわかる活動を行っていけるとよい。	A	・年間をとおして小中連携の在り方を見直し、授業公開や体験授業、部活動体験を効果的に実施した。また、入学説明会や体験入学、小中連携活動等で児童・保護者に開かれた学校紹介を意識し、入学後に学校生活に前向きに取り組める環境を整えた。	A	・PTA運営委員会や学校評議員会、小中連携について努力していることが分かった。 ・小学校と同じ方向を向いて教育活動ができるよう、学校応援団や学校評議員、PTA等のメンバーが何人か、小学校と中学校で共通しているといふ。	・1学期から小中連携を計画し、小学校、中学校両方で授業を見合うなど、学習活動や生活指導、学校行事、PTAの在り方を情報共有し、同じ方向性で教育活動を実践していく。	
		○自分の考えをもち議論する道徳授業、いじめ防止基本法に基づく授業を実施	・道徳授業の研究授業を各学年実施し、道徳授業ローテーションやいじめ、人権教育、愛校心の育成など、生徒が安心して、学校生活を送り、「上中でよかった」と思える教育活動を実践する。	・「いじめ防止」に関する授業を各学期1回ずつ実施。また前期の生徒総会、後期の生徒会選挙など生徒が自発的によりよい学校生活を目指す機会を作る。	85%	85%	B	・道徳授業地区公開講座を1学期実施し、道徳観や人権感覚について保護者、生徒と共に考えることができた。2学期は教員による道徳授業ローテーションを実施し、様々な視点で問題解決していく力を育成する。また生徒会活動を活性化させ、専門委員会等で生徒が自主的に提案するなど、主体的に活動する場面を増やしていく。	B	・道徳授業を観察し、社会に出ていくうえで、自己判断する力を養い、困難なことを解決できるよう、今後も継続して指導してほしい。 ・給食活動で班で食べる機会をもつなど、コロナ禍を経て、いろいろな場面で進化した取組を生徒に考えさせるとよい。	B	・「心の教育」を重点に掲げ、2月の道徳の研究授業と校内研修を実施し、道徳教育から「いじめ防止」「人権教育」「奉仕の精神」など、来年度に向け指導の重点項目を精査した。 ・「いじめ防止」について授業や研修を実施し、「いじめのない学校」の実践を生徒主体で考えさせ、実行させた。	B	・「道徳授業地区公開講座」で道徳の授業を拝見し、生徒と先生たちが、「よりよい人間関係の構築」や「命の大切さ」について真剣に考えていてよかった。 ・生徒会の活動や奉仕・ボランティア活動等の取組で、PTA活動等を通じて、保護者や地域と一緒に取組めるものがあるといふ。	・校内研修を計画的に実施し、人権教育や道徳教育、いじめ防止等、様々な主題を取り入れ、「心の教育」を実践していく。 ・生徒主体でいじめ防止や奉仕・ボランティア活動、集団生活の向上について、それぞれ役割をもたせて実行させる。	